

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第701号

[Website] <http://www.print.or.jp>

[E-mail] info@print.or.jp

10

2014

平成26年
10月10日発行

INDEX

印刷燦燦	3
第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会	4~8
第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会文化典宣言	9
永年勤続優良従業員表彰受賞者	9
2014北海道情報・印刷産業展	10・11
2014北海道情報・印刷産業展公式セミナー	12
全印工連CSR認定案内	13
北海道最低賃金改定	14
リコージャパンセミナー案内	14
業界のうごき	14

[表紙] 地獄谷の紅葉 (登別市)

北海道印刷工業組合

〒064-0808 札幌市中央区南8条西6丁目 TEL.011-562-6070/FAX.011-562-6072

印刷 燦 燦

第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会を終えて

実行委員長を務めさせていただきました、第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会が、9月5日無事に終えることができました。

札幌支部主管での文化典開催は、53年振りとなったわけですが、皆様にご協力頂きまして、式典には180名、記念パーティには172名の方々にご参加頂きました。

実行委員会を代表し、お越しいただきました皆様にご心より感謝申し上げます。

今回は、開催テーマを「新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの『道』」とし、「ソリューション・プロバイダーへの深化」と題した講演を、全日本印刷工業組合連合会の島村会長にお願いいたしました。

我々は今、過去に例を見ない多面的変化の時代にいます。

様々な変化と、多様化に対応するために必要なことは、今まで当たり前のようにやってきたことを一度リセットし、新たな価値と常識、新たな未来を創造することが必要です。

そのためには、ソリューション・プロバイダーとして、自社の変革を「勇気」と「覚悟」をもって推し進めることが求められます。

長い歴史の中で「情報を伝達する媒体」であった「紙」は、印刷という手段で、同じ情報を大量に複製し、コミュニケーションツール、またはマスメディアとして、人々の生活に定着していました。

しかし、「情報を伝達する手段」が多面化し、人々の「情報を取得する手段」が多様化している現在、従来の「印刷」という手段は、すでに時代の変遷期に直面しています。

印刷物の消費量、イコール、情報の消費量に比例するのであれば、減ることは避けられません。

現実を直視し、単に希望的観測を個人の見解として「評論」しているだけではなく、情報としての価値を紙に持たせ、媒体としての価値を高めるということを「当事者」として、経営判断を迫られている現状があります。

ソリューション・プロバイダーへの道は、まさにそのためのステップです。

今回の文化典は、2014北海道情報・印刷産業展と併催し行いました。

3日間で、計6,100人あまりの入場を頂きました。足をお運び頂いた方々には、経営判断のシーズに結び付けていただけることを祈念いたします。

最後に、本文化典開催にあたり、各業界団体はもとより、ご協力、ご後援いただきました皆様、ご支援賜りましたメーカー・ベンダー各社の皆様、そしてご参会いただきました皆様に感謝申し上げます。

第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会副大会長・実行委員長 岸 昌洋

株式会社正文舎 代表取締役

第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会 盛大に開催される

「新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの『道』」

第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会が、「新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの『道』」をテーマに、9月5日、全道から組合員はじめ来賓・関連業界の方々180余人が出席して開催された。

記念式典が午後1時30分から、記念講演が午後2時40分から、北海道情報・印刷産業展見学が午後3時30分からアクセスサッポロで行われた。

会場を札幌パークホテルに移して、午後6時30分から記念パーティが行われた。

札幌での情報・印刷文化典は、昭和36年以来53年ぶりの開催で、今回は2014北海道情報・印刷産業展とコラボレーションしての開催となった。

次回、2017年の第31回北海道情報・印刷文化典は、旭川支部の主管で開催される。

記念式典



山 浩司
副実行委員長

記念式典は、冒頭、前回のオホーツク大会以降に逝去された組合員16人に黙祷を捧げた後、山浩司副実行委員長の先導で印刷産業人綱領唱和が行われた。

次に、岸昌洋副大会長・実行委員長が、最初に来札と参加のお礼を述べ、「今回は、開催テーマを『新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの道』とした。現代



岸 昌洋
副大会長・実行委員長

の印刷産業は、もはや高度経済成長下での装置産業として同質の競争を繰り広げてきた今までのビジネスモデルが、まったく通用しなくなった。しかし、我々はこれからも社会に信頼され、世の中に必要とされ、今後も事業を継続させなくてはならない。そして我々は今、過去に例を見ない多面的変化の時代にいる。さまざまな変化と多様化に対応するために必要なことは、今まで当たり前のようにやってきたことを一度リセットし、新たな価値と常識、新たな未来を創造することが必要である。そのためには、ソリューション・プロバイダーとして自社の変革を『勇気』と『覚悟』をもって推し進めることが求められる。長い歴史の中で『情報を伝達する媒体』であった『紙』は、印刷という手段で同じ情報を大量に複製し、コミュニケーションツール、またはマスメディアとして人々の生活に定着していた。しかし、『情報を伝達する手段』が多面化し、人々の『情報を取得する手段』が多様

化している現在、従来の『印刷』という手段はすでに時代の変遷期に直面している。印刷物の消費量イコール情報の消費量に比例するのであれば、減ることは避けられない。現実を直視し、単に希望的観測を個人の見解として『評論』しているだけではなく、情報としての価値を紙に持たせ、媒体としての価値を高めるということを『当事者』として経営判断を迫られている現状がある。ソリューション・プロバイダーへの道は、まさにそのためのステップである」と歓迎あいさつを述べた。



板倉 清
大会長

参加支部紹介が行われたあと、板倉清大会長が、「札幌での、北海道文化典開催は、昭和36年以来、53年ぶりの開催になる。今回は、『新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの道』をテーマとして、現在、隣の会場で開催されている2014北海道情報・印刷産業展とコラボレーションして、新しい運営方法・スタイルで開催する。本文化典の開催にあたり、多数の来賓、関連業界の皆様、そして全道から組合員を迎えて、このように盛大に開催できることは、この上ない喜びである。道内印刷業界を取り巻く環境は、未だにアベノミクス効果が、実感できなく、需要の減退、原材料価格の値上がり、価格競争の激化等、負の要因に拍車がかかり、収益が著しく低下するなか、デジタル技術の急進展による技術融合、業態化、顧客のペーパーメディアから他メディアへの流失など、様変わりしてきており、これまで経験したことのない、大きな変革への対応が迫られている。我々は、自ら、本文化典のテーマである『ソリューション・プ

ロバイダー』として、持続可能な成長を果たし、未来を創る印刷産業として、進化を遂げるより勝ち残る方策はない。こうしたときに開催する本文化典は、全道の組合員が一堂に会し、喫緊の問題や課題を共有し、討議を行い、研鑽を重ね、親睦を深め、連携をより強固にし、企業の社会的責任を全うし、有益な印刷製品・サービスの供給に努め、国民生活および文化を支える産業として、前進を期する、誠に時宜を得た、意義深いものと確信している。本文化典が、『ソリューション・プロバイダー』としての、未来像を描く契機となることを願って止まない。

組合では、いろいろな事業を行っている。なかでも、広報事業、研修事業、親睦事業は、中心事業である。本日、その1つである「北海道の印刷」を、皆様の手元に届けている。何と、通巻700号である。創刊は、昭和27年12月の「北海道印刷界情報」と聞いている。実に60年におよぶ歴史が、組合事業として脈々と受け継がれている証である。これからも、皆さんと一緒に育んで行きたい。

長年にわたり、企業の繁栄に貢献され、本日、栄えある永年勤続優良従業員表彰を受けられる皆様に、衷心より、敬意と祝意を申し上げる」と述べた。

次に、来賓を代表して4人から祝辞が述べられた。



寒川卓知氏
(北海道経済産業局)

寒川卓知経済産業省北海道経済産業局地域経済部長は、「政府では持続的な地域経済の好循環を実現しようということで全力を上げている。そのためには何よりも地域の中小企業の活性化と多様な活躍の場を作っていくということが重要と

思っている。これまで流れを変えるために設備投資、イノベーション促進などさまざまな展開を図ってきたが、これからは地域と中小企業の振興にさらに注力をしていきたい。こうした状況のなか、ますます大切になるのが地域の中小企業の皆様、組合の役割である。なかでもこの激動する経済社会のなかで、物事の成否を決する情報を、商品として扱い方一つで価値も変わってしまう。それを見える化して、内外の人や企業に橋渡しをし、価値の創造を担っている印刷業界の皆様の活躍が本当に欠かせない。時代とともに情報化、提案型産業等の取り組みが印刷業界の中で広がっていき、環境、価値観、技術も大きく変化してきている。その間、業界では、CSR認定、ユニバーサルデザインの促進など、さまざまな取り組みをして進化をしてきた。その成果である印刷は、常に私たちの側にあり、どんなものにも印刷できるという領域にまで広がっている。一方で、技術革新により印刷が手軽に消費者でもできる時代になり、そのなかでプロの皆様が担う分野はより高度で、より一環した利便性や実効性が求められてい

る。まさに皆様が進んでいるソリューション・プロバイダーとしての役割が本当に重要になっていることを示しているのではないかと述べている。これは経済社会のなかで不可欠で、身近な存在である印刷だからこそ求められているそんな気がしている」と述べた。



辻 泰弘氏
(北海道)

辻 泰弘北海道経済部長は、「情報通信機器の普及などに伴う情報技術や通信手段の目ざましい進歩により印刷業界を取り巻く環境が大きく変化しているなか、北海道印刷工業組合の皆様には、新しい時代の印刷産業を広くアピールするなど、印刷業が情報価値創造産業へ変わるための牽引役として大きな期待が寄せられている。『新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの道』をテーマとして開催される本大会を契機として、多様なニーズにも柔軟に対応することができる業界を目指している皆様、知恵と技術を結集して、新たな事業に取り組んでいくことを期待している。道としては、持続的に発展する北海道を築いていくため、本道の強みを活かす自立型経済の実現に向けて、ものづくり産業の振興や中小企業・小規模事業者の皆様の支援など、地域を支える産業力の強化に向けて重点的に取り組んでいく」と述べた。



井上唯文氏
(札幌市)

井上唯文札幌市副市長は、「印刷業界を取り巻く環境は、ICT技術の進展や為替の影響に伴う原材料費、光熱費の変動など大変厳しいものがあるが、北海道印刷工業組合傘下の皆様が一堂に会し、この業界の一層の発展を目指していることに対し心から敬意を表す。札幌の印刷業は、製造品出荷額で全体の約15%を占めており、本市の製造業のなかでは食料品製造業に次ぐ産業である。製造業は他産業への波及効果が大きく、高付加価値型産業の代表であるので、さらなる経済の発展のため、その振興が非常に重要だと考えており、印刷業を含めた製造業の皆様にさまざまな支援策を行って来た。最近では事業者

の省エネの取り組みに対する支援として札幌型スマートファクトリー化推進支援事業を実施している。これは印刷業や金属機械製造業が集積する工業団地を対象に、電力の見える化や専門家による助言などによって、電力利用の効率化によりコスト削減に繋げる事業である。設備の導入に対する支援として、LED照明器具や高効率ボイラー等、省エネルギーに繋がる製品の導入に対して補助金の支援を行う札幌エネルギーエコプロジェクト事業を行っている。印刷業は製造業のなかでも、大量に電力を消費する業界でもあるので、皆様には是非こうした取り組みを利用いただければ幸いです」と述べた。



島村博之氏
(全日本印刷工業組合連合会)

島村博之全日本印刷工業組合連合会会長は、「印刷業界は非常に厳しい状況にある。1991年をピークに売上高は減り続け、2012年段階では5.6兆円まで下がってきている。こうした状況のなかで、印刷業界は衰退し続けるという予測も出ているが、我々全印工連の印刷会社は全くそう考えていない。4年前に、昨年出た『印刷道』の1つ前の印刷産業の成長戦略提言を発表した。その時に2020年、10年後、我々の産業はこのように衰退するという予測を数字で表した。しかし、それはあくまでも今までのビジネスモデルに則ったかたちで事業をしていけば、どんどん衰退していく。しかし、メディアが新しくなっていくなかで、我々がしっかりとソリューション・プロバイダーとして業態変革をしていけば、決してこの予測通りに企業自体が衰退していくわけではないという提言をした。それぞれの会社が、新しいメディアに対して、どのように取り組んでいくのか。決して情報量が減っていくわけではない。情報を発信するメディアが変わってきていることに過ぎない。その新しいメディアに対して、コンテンツを制作している業界は何処なのか。これを認識したときに、我々印刷産業人は、どのように自分の会社を変えていかなければならないのかということは自ずと分かると思っている。スマートフォ



ン、タブレット、PC、コンテンツは同じものではなく、多くのパーソナライズ化されたコンテンツを必要としていく。その何百万、何千万というコンテンツを作っていく業界は今存在しているか。残念ながら存在していない。まさに、このコンテンツを作っていくのが、我々印刷業界のそれぞれの会社である。全印工連の組合員、現在5,200社、全印工連に入っていない印刷会社その倍、我々全印工連の組合員は、将来にわたって少なくなっていく印刷業界のなかで、しっかりと勝ち残るために日々勉強し、学習し、研鑽して、お互い切磋琢磨をして勝ち残っていく」と述べた。

祝電披露につづき、永年勤続優良従業員表彰が行われ、30年勤続2人、20年勤続12人、10年勤続2人のうち、当日出席した8人に板倉理事長から表彰状と記念品が贈られた。(受賞者氏名は9頁に掲載)



花田光吉氏
(北陽ビジネスフォーラム)

受賞者を代表して、北陽ビジネスフォーラム株式会社の花田光吉氏から「このように多くの皆様のもとで、盛大な表彰式を挙げていただき、その上、表彰状ならびに記念品を賜りましたことは、まことに身にあまる光栄です。過ぎ去った長い年月を振り返ってみても、社員として当然のことをやってきただけで、表彰に値するような功績は何一つとして思い当たりません。ただ、与えられた仕事を精一杯やり遂げること

ができたという、働く者の喜びだけはしっかり掴み取ることができたと思っています。今後も、社業の発展のため力の限り職務に尽くして参ります」と謝辞が述べられた。



矢吹英俊
副実行委員長

次に、矢吹英俊副実行委員長から、「ソリューション・プロバイダーとしての未来像を探求し、情報価値創造産業の使命を果たし、有益な印刷製品・サービスの供給に努め、国民生活および文化を支える産業として、さらなる発展を期して一致団結して社

会に貢献する」という第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会の文化典宣言が提案され、満場の賛成で採択された。（宣言文は9ページに掲載）



井田多加夫
旭川支部長

つづいて、2017年の第31回北海道情報・印刷文化典の開催地を板倉理事長から「旭川支部」と発表され、旭川支部の皆さんが登壇し、大会鍵が岸札幌支部長から板倉理事長へ、そして井田多加夫旭川支部長へ引き継がれた。

井田旭川支部長が、「3年後は旭川で会いましょう」と呼びかけた。

以上で、第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会記念式典を終了した。

記念講演

記念講演は、午後2時40分から、島村博之全日本印刷工業組合連合会会長を講師に迎え、「ソリューション・プロバイダーへの深化」をテーマに開催された。

島村会長は、(1)印刷産業の過去と現在の状況について、①印刷産業の出荷額・事業所数・従業員数の推移、②リーマンショック以後の印刷需要の減少、③印刷会社の営業利益率の推移、④出版物の減少と電子書籍市場の推移、⑤官公需の競争激化、⑥広告費の減



少、⑦メディアスイッチ、⑧人口の推移、⑨2020年までのGDP成長予測、⑩中小・中堅印刷会社の売上高と出版・商業用オフ輪台数の伸び率比較、⑪2020年までの印刷市場規模予測、⑫印刷市場規模と印刷事業所の推移予想をもとに説明した。

(2)ソリューション・プロバイダーに必要な3つの要素として、①原点回帰、②ワンストップ対応、③経営者の志について説いた。

(3)ソリューション・プロバイダーの6類型について、①地域活性プロモーター、②特定機能プロバイダー、③特定業界スペシャリスト、④メディアプロダクトメーカー、⑤パーソナルメディアショップ、⑥印刷製造スペシャリストについて事例を交えて披露した。

(4)ソリューション・プロバイダーへのステップとして、①現在の事業ドメイン（強み）の分析、②内外の環境変化を整理、③新ドメインの再定義・6類型の選択、④具体的ソリューション（手法）の選択、⑤行動計画と実践を訴えた。

最後に、「志高き経営者として『印刷道』を実践し、新しい『Insatsu産業』を私たちの手で作り上げ、日本のそして世界の平和と繁栄に貢献しよう! 『Insatsu』が世界を変える!」と結んだ。

2014北海道情報・印刷産業展見学

記念講演終了後の午後3時30分から、今回の情報・印刷文化典の新しい企画である「2014北海道情報・印刷産業展」の見学が行われた。

記念パーティ

記念パーティは、午後6時30分から札幌パークホテルで170余人が出席して開催された。



加藤 景
副大会長

最初に、加藤 景副大会長が、「本日は、記念式典から始まり、記念講演、産業展と盛り沢山の1日、本当に暑いなかお疲れさまでした。メインイベントの記念パーティがこれからスタートする。皆さんお疲れなので、皆さんを労う美味しい料理。お酒、そして札幌一素適なコンパニオンさんに協力いただき、皆さん多いに満喫していただければと思っている。アトラクションに松山千春さんのものまで有名な、こんちはるさんをお願いしている。アトラクションというよりはおそらくディナーショーになると思う。皆さん期待いただければと思う」と歓迎あいさつを述べた。

次に、板倉理事長が、「記念式典で60年間続けている会報があり、これは印刷組合が続いてきた結果であるということを示し上げた。実はもう1つある。この大会そのものである。昭和25年のスタートと聞いている。64年の時間を経ていることになる。諸先輩方が、印刷産業を地域に根ざし、経済を栄えさせていこうという思いでこの大会を続けてきたのではないかと想像している。この大会を続けていくには皆さんの親睦、絆がなければなかなかできない。絆を築いていただき、親睦を図っていただき、この大会が2017年、2020年、2023年と続けることを皆さんと一緒に祈念したい」と述べた。



荒井 功氏
(札幌市)

来賓祝辞で、荒井 功札幌市経済局長が、「印刷業界を取り巻く環境は皆さんもご存知のとおり、電力の値上げ、為替の変動等いろいろな問題が山積しているが、そういったなか、皆さん一致団結して業界の発展のために尽力されていることに改めて敬意を表す。今回の札幌大会のパンフレットを拝見させていただくと『新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの道』と題されている。伝統的な印刷をされている方はもちろんであるが、そういった方々も新しい業態、分野への取り組みが、ここ近年進んでいるのかと思っている。そしてこの題にもあるよ



うに、新しい道を模索する努力が各方面でされているのではないかと推察する。改めてそういった努力に対して敬意を表す。これからグローバル化あるいは市場規模が縮小していき、環境はどんどん変わって来るが、皆さんの努力でそういったものに上手く対応し、乗り切っていく、皆様の企業がこれからますます発展していくことを願っている」と述べた。



加藤礼一氏
(北海道議会)

つづいて、加藤礼一北海道議会議長が、「今日3時頃アクセスへお邪魔して見させていただいた。昔と違って印刷業界は機械化が進んで素晴らしい進歩であるが、それ以上に今日お集まりの皆さんがこれからの新しい業界の体制を変革していこうという熱気に溢れた大会になっているのではないかと改めて感じた。これからも非常に厳しい時代であるし、ITの時代からICTの時代でコミュニケーションが改めて入ってきた時代であるから、これから先駆的な役割として皆さんの業界が、ますます先頭を走っていただけるようであり続けていただくことを祈念する」と述べ、乾杯し、開宴した。

会食と歓談がつづくなか、アトラクションとして、こんちはるさんが登場し、会場を興奮と笑いの熱狂の渦に巻き込んだ。



大和繁樹
副実行委員長

旭川支部の皆さんが3年後の文化典のピーアールを行ったあと、大和繁樹副実行委員長が、「昼の式典から始まり、島村会長の講演会、産業展、記念パーティとお疲れ様でした。こんちはるさんでは、皆さん大いに盛り上がっていただいた。3年後には皆さん元気な顔をそろえて旭川でお会いできればうれしいと思う」述べ、本日参会の皆様への健勝、各企業の発展と印刷業界の明るき未来を祈念して、一丁締めで、記念パーティを終了した。

第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会 文化典宣言

北海道印刷業界は、未だにアベノミクス効果が実感できなく、取り巻く社会環境・経済環境・情報環境は様変わりしつつあり、これまで経験したことのない大きな変革への対応が喫緊の課題となっている。

それには、ソリューション・プロバイダーとして、持続可能な成長を果たし、未来を創る印刷産業へ進化しなければならない。

我々印刷産業人は、世界とむすぶ高い文化のまちをめざす北海道の拠点都市・札幌市に、「新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの『道』」をテーマに掲げ、集い、英知と情熱を結集し、弛みない研鑽を重ね、ソリューション・プロバイダーとしての未来像を探求し、情報価値創造産業の使命を果たし、有益な印刷製品・サービスの供給に努め、国民生活および文化を支える産業として、さらなる発展を期して、一致団結して社会に貢献することを宣言する。

平成26年9月5日
第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会

永年勤続優良従業員表彰受賞者

■30年勤続

〔札幌支部〕 渡辺一二（㈱ヒロミ産業）／花田光吉（北陽ビジネスフォーム㈱）

■20年勤続

〔旭川支部〕 中村良子（中村印刷㈱）／小板橋信幸（同）／安孫子 仁（同）

〔札幌支部〕 石倉 修（川越製袋㈱）／小林有佳里（同）／片岡孝一（同）／石橋裕子（同）／松本武志（㈱ヒロミ産業）
山口博之（同）／橋本 剛（同）／新居泰宏（同）／堀江眞智子（㈱ホクラミ）

■10年勤続

〔札幌支部〕 佐藤 巖（㈱アイテックサプライ）／田中美月（㈱さっぽろフォトライブ）

2014北海道情報・印刷産業展が盛大に開催

49社153社小間が出展、来場者6,100人

北海道印刷工業組合と関連の6団体で構成する北海道情報・印刷産業展実行委員会が主催する2014北海道情報・印刷産業展が、9月4日、5日、6日の3日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで49社153小間の出展で開催された。

設備導入、情報交換の場として、ユーザーはじめ関係者から高い評価を得て、会期中6,100人の来場者で賑わった。

また、4日に開催した3つのジャンルの公式セミナーも大盛況であった。

2014北海道情報・印刷産業展は、21世紀の情報化時代を見据えて、ICT時代に対応するために開催され、北海道の印刷関連業者に的確な情報を提供するため、プリプレス、プレス、ポストプレスに加えて、各種ソリューションまで全工程にわたる最新機材や、ソフトウェア、資材、情報機器等が展示された。

展示会初日の9月4日午前9時30分から、来賓・出展者などが出席して開会式が開催された。



板倉 清
実行委員会 会長

最初に、板倉 清実行委員会会長（北海道印刷工業組合理事長）が、来賓に対して臨席のお礼、機器・資材メーカーならびに北海道印刷機材販売業者懇話会会員に対して、出展

と協力のお礼を述べたあと、「印刷産業を取り巻く環境は、未だにアベノミクス効果が実感できなく、需要の減退、価格競争の激化による収益の著しい低下のなか、デジタル技術の急進展による技術融合、業際化、顧客におけるペーパーメディア生産の活発化など、様変わりしてきており、これまで経験したことのない、大きな変革への対応が迫られている。さらにデジタル技術の目覚ましい発展により、情報伝達の手段が多岐になり、一層精度の高いプロの技術を探求し続け、情報産業と製造業を兼備し、ソリューション・プロバイダーへ進化して行かなければ、将来展望は描けなくなっている。ソリューション・プロバイダーとして、社会の要求に応えるビジネスを推し進めるためには、自社の設備や技術力を充実・向上させることはもとよりであるが、同業者・関連業者・隣接異業種等とのコラボレーションを積極的に推進することも、一つの方法であり、新しいビジネス発掘の手がかりに繋がるものと考えられる。そのためには、最新の技術

動向・情報を、収集し、実践することが必須であり、この『北海道情報・印刷産業展』に寄せられる期待は、年々高まって来ている。毎年、好評を博している公式セミナーは、今年は、『望まれる印刷・関連企業になるために【第8弾】』として、3つのジャンルで開催する。また、全道の皆様に、全国の優れた印刷製品を見て、触れていただける、『第55回全国カタログ・ポスター展入賞作品展』、『2014年第65回全国カレンダー展入賞作品展』を同時開催している。今年は、北海道印刷工業組合の『第30回北海道情報・印刷文化札幌大会』が、明日、隣の会場で開催され、本産業展の見学会が行われ、これまで以上の多くの来場者が見込まれる。3日間、事故なく、見学された方、出展された方、それぞれが実り多い成果が得られ、来年に繋がる素晴らしい産業展になるよう私も頑張るので、皆様からの支援をお願いしたい」と主催者を代表してあいさつを述べた。

次に、来賓紹介が行われたあと、代表して3人から祝辞が述べられた。



島田雄二 氏
(北海道経済産業局)

島田雄二経済産業省北海道経済産業局地域経済部次長は、「我が国経済は、消費税引き上げの反動も和らぎつつある。道内は、業態・地域によりさまざまな動きをしているが、総じて景気は緩やかな持ち直しというところと思う。楽観できない状況も多々ある。特に地方地域においてはアベノミクスの効果はいかがかというところもある。政府としては先ほど日本再興戦略を改定した。アベノミクス効果を日本の津々浦々まで波及させようという取り組みをさらに進めようというところである。経済産業省としても日本の稼ぐ力の強化、そして中小企業の活性化を2大ポイントとし

て平成27年度概算要求をまとめたところである。印刷業界の皆さまにはこれまでのジェットコースターのような景気の変動もさることながら、社会の情報伝達媒体の急速な変化から各企業の事業環境が大きく変化していると私どもも認識している。しかし、印刷物は情報と文化の伝達媒体として、依然大きな存在感をもち続けていることは間違いない。今後の印刷業界が生産性の向上、技術革新、顧客への提案などサービス力の向上というまさにソリューション・プロバイダーへ進化することによって、業界の新たな展開、発展が見えてくると期待している。今回の北海道情報・印刷産業展は、そういった皆様方の最新の印刷機械、周辺機器、関連設備といった展示がされているだけで印刷業界の皆様の日々の技術革新の成果、磨きかけられた顧客への提案力が一同に集結し、それをお披露目する場と思っている」と述べた。



中井英雄 氏
(北海道)

中井英雄北海道経済部産業振興局産業振興課長は、「本道の経済は穏やかに持ち直していると言われていたが、我々が企業からの声を聞くと、なかなか景気の回復が実感できないという声が非常に聞こえており、そういうなかで昨今北電による電気料金再値上げの申請もあり、皆様方の経営はもとより本道経済に非常に大きな影響がでるのではないかと懸念している。一方、急速に進行している少子高齢化への対応をはじめ、人口減少に伴うさまざまな課題に直面しており、道としても将来にわたり、持続可能な北海道を築いていくためにも、ものづくり産業の振興、さらには中小企業の皆様や小規模事業者の支援など、地域を支える産業力の強化に重点的に取り組んでいきたい。印刷業界では、電子書籍など新たな分野での収益モデルの確立に向けた動きが進むなかで、本産業展では、オンデマンドプリント機器や電子書籍作成ソフトの展示など、最新の情報技術の普及促進に向けた取り組みが紹介されると聞いており、業界が一丸となってイメージアップを図っていくこういう取り組みは大変



早瀬京太 氏
(札幌市)

重要だと思っている。その牽引役として北海道印刷工業組合をはじめとする皆様方の果たす役割は非常に大きいと思っている」と述べた。

早瀬京太札幌市経済局産業振興部ものづくり産業課長は、「道内の



印刷業界の皆様が一堂に会し、今後の業界の発展に向けた最新の機械、機器類を展示され、あるいはたくさんの方が発信されるこの展示会で、来場される皆様方にとっては内外の経営環境に応じた新しいビジネスを展望され、新しいビジネスチャンスをもつ具体的につまえる絶好の機会になると思っている。札幌市内の製造業において、印刷業は食料品製造業に次ぎ製造品出荷額が2番目である。関連業種も多く、主要な産業の1つと認識している。印刷業に携わる皆様方は、昨今、需要の減少、価格競争の激化など大変厳しい経営環境に置かれていると伺っているが、こうした時代があるからこそ、新しい技術、知識を活用していただき、革新的なサービス、製品を世の中にどんどん出していくことが極めて重要になってくると思っている。こうしたことを通じて印刷業界の皆様方には、今後も札幌市の経済を支える基盤産業の1つの担い手として役割を担っていただきたい。札幌市では製品開発の支援を行う事業や電力使用の効率化を支援させていただく事業など、いろいろな場面で製造業に対する支援を行っている」と述べた。

次に、祝電披露が行われたあと、来賓の島田雄二経済産業省北海道経済産業局地域経済部次長、中井英雄北海道経済部産業振興局産業振興課長、早瀬京太札幌市経済局産業振興部ものづくり産業課長と板倉清北海道情報・印刷産業展実行委員会会長、岸昌洋同実行委員長（北海道印刷工業組合副理事長）によりテープカットが行われ、開幕した。

同産業展において、「第55回全国カタログ・ポスター展入賞作品展」ならびに「2014第65回全国カレンダー展入賞作品展」が同時開催された。

さらに、4日には「望まれる印刷・関連企業になるために【第8弾】」の3つのジャンルで、公式セミナーが開催され、大盛況であった。

2014北海道情報・印刷産業展公式セミナー 開催される

望まれる印刷会社・関連企業になるために【第8弾】

2014北海道情報・印刷産業展公式セミナーが、会期中の9月4日にアクセスサッポロのレセプションホールで開催され、3つのセミナーすべてが多数の受講者で盛会裡に開催された。

セミナー第1講は、午前11時からキャノンマーケティングジャパン(株)PPS企画本部プロダクションシステムサポートセンター部長の中野周行氏を講師に迎え、「キャノンが考える新しいプリンティングビジネスの可能性」をテーマに開催された。

中野講師は、社会に流通する情報量が爆発的に増加し続け、生活者が処理できる情報量とのギャップがますます大きくなっているなかで、生活者にいかに発信する情報に興味をもってもらい、購買行動を起こさせるかがマーケティングのキーになっているとした。またテクノロジーの進化により、「マス」から“個”へ、より精緻なマーケティングアプローチを図ることが可能になってきたことから、マーケティングと印刷テクノロジーを掛け合わせた課題解決型プリンティングビジネスへの挑戦について説明した。

セミナー第2講は、午後1時から富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)と富士ゼロックス北海道(株)の提供により、感動会社楽通代表の田村慎太郎氏を講師に迎え、「印刷会社にこれから本当に求められる～想いを形にする仕事～」をテーマに開催された。

田村講師は、お客様にとって印刷会社は必要なのか



と正し、例としてお客様はチラシという印刷物を作りたいのではなく、そのチラシを見てもらうことによって来店する、商品を買ってもらう効果を期待している。しかし、想いはあっても、それをきちんとビジュアルに変えることのできないお客様の方が多い。そこに印刷会社のビジネスチャンスがあると指摘し、お客様のその先のお客様のことまで考えて、新しい印刷物の力を発信する印刷会社になるヒントを事例を交えて説明した。

セミナー第3講は、午後3時からリコー(株)の提供により、(株)バリューマシーンインターナショナル取締役副社長の宮本泰夫氏を講師に迎え、「2つのワンストップから印刷ビジネス拡大を考える!～既存ビジネスの隣に解がある～」をテーマに開催された。

宮本講師は、印刷市場が縮小するなかで、印刷会社はソリューションビジネス提案型への転換やトータルサービス・ワンストップサービス化を推し進める動きが活発化しているが、ただやみくもに思いついたことやお客様から求められたことだけを行ってもビジネスに結び付くのは難しいとして、同社のオリジナルである「縦のワンストップサービス」と「横のワンストップサービス」に焦点をあて、印刷ビジネス拡大について説明した。

全印工連CSR認定のご案内

第7回ワンスター認定募集 (2014年10月31日締切)

全印工連CSR認定の標準認定であるワンスター認定の第7回認定募集を行いますので、これからCSRに取り組む方も既に取り組まれている方も、ご利用くださいますよう、ご案内申し上げます。

Q CD (品質・コスト・納期) の競争から企業価値の競争へ。企業としての信頼性や社会的責任が問われる中、全日本印刷工業組合連合会 (以下、全印工連) では、CSR (企業の社会的責任) 研究の第一人者である横浜市立大学の影山教授監修のもと

と中小印刷業CSR規格を策定し、地域に密着したCSRに取り組み、顧客・社会から必要とされるパートナーとして成長する企業のCSR認定に取り組んでいます。(2014年8月現在CSR認定企業は73社)

応募資格

都道府県印刷工業組合に所属する組合員企業

募集期間

2014年8月1日(金)～10月31日(金)
※2014年12月認定登録 (予定)

申請書類

応募申込書の到着後、全印工連より申請書類をお送りいたしますので、次の①～⑤を提出してください。

- ①CSR取り組み項目チェックリスト
- ②法令遵守宣誓書 (所定様式)
- ③納税証明書 (税務署が交付した証明書)
- ④過去3年の行政処分がないことの宣誓書 (所定様式)
- ⑤添付書類
(CSR取り組み項目チェックリストで選択した項目を証明する書類)

認定の概要

ワンスター認定はCSR認定の標準認定であり、審査機関の横浜市立大学CSRセンターが書類審査を実施し、外部の有識者で構成する全印工連CSR認定委員会において認定します。認定企業は、CSRマークを自社の名刺やホームページ、顧客の印刷製品に表示することができます。認定取得後は2年毎に審査委託更新審査を行い、上位認定であるツースター認定を取得することも可能です。

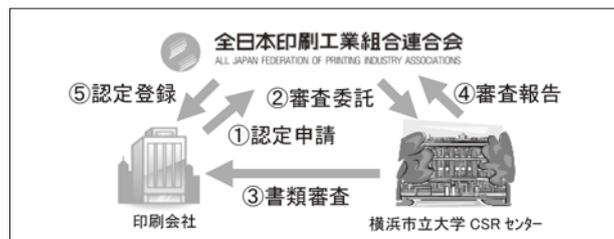
CSR認定証



ワンスター認定 CSRマーク



P-00000



認定費用

(単位: 円・税込み)

従業員数	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～99	100～199	200～299	300～
認定費用	54,000	59,400	64,800	75,600	86,400	97,200	108,000	118,800	129,600

※認定費用は従業員規模により異なります。従業員数には従業員のほか役員も含まれます。

お問合せ

全印工連CSR認定事務局 TEL.03-3552-4571 [e-mail]csr@aj-piaor.jp
詳細はホームページをご覧ください

全印工連 CSR

検索



北海道最低賃金改定

(平成26年10月8日改定)

北海道内で事業を営む全産業の使用者およびその事業場で働くすべての労働者(臨時、パートタイマー、アルバイト等を含む)に適用される北海道最低賃金(地域別)が、次のとおり改定された。

最低賃金額	時間額748円	効力発生日	平成26年10月8日
-------	---------	-------	------------

○最低賃金には、精皆勤手当、通勤手当、家族手当、臨時に支払われる賃金および時間外等割増賃金は算入されない。

○最低賃金額以上の賃金を支払わない場合は、最低賃金法違反として処罰されることがある。

リコージャパン セミナーのご案内

リコージャパン株式会社は、Value Presentation2014「CCSセミナー」を開催する。

スマートフォン、タブレットの普及により、お客様の「買い方」「選び方」が根本から変わった今、これまでと同じ販促の「やり方」では、期待する効果が得られることは少ない。

それどころか“常連さん”まで失いかねない。

本セミナーをきっかけに、もう一度、自社の“販促物”を見直して、お客様に選ばれ続ける“基準”と、その“伝え方”考えませんか？

日 時	平成26年10月21日(火) 午後2時
会 場	ホテルロイトン札幌 札幌市中央区北1条西11丁目1 TEL.011-271-2711
テ ー マ	売上拡大力“覚醒”ゼミナール ～貴社の本当の“価値”伝わってますか？ お客様に選ばれ続ける秘訣をお教えます～
講 師	(株)バリューマシーンインターナショナル 代表取締役社長 河島弘司 氏

業 界 の う ご き

▶(有)藤工場が移転

有限会社藤工房(齊藤嘉昭社長)は、このたび、移転した。

[新住所]〒003-0808 札幌市白石区菊水8条2丁目1番15号 日本標示(株)内 2F

電話011-817-8201/FAX011-817-8202

北海道情報・印刷文化典札幌大会



厳かに举行された記念式典



記念式典参加の皆さん



永年勤続優良従業員表彰受賞者と板倉理事長



井田旭川支部長へ大会鍵を引き継ぎ



文化典Tシャツで記念講演を行う島村会長



盛り上がった記念パーティ



興奮と笑いの渦の「こんにちは」ショウ



文化典を運営した皆さんで「はい・チーズ」

